

東北ダンプの

【発行】全日本建設交通一般労働組合(略称・建交労)東北ダンプ支部
〒963-8025 郡山市桑野2-3-2
建交労福島ダンプ分会内
2023年9月1日発行 NO.15 TEL024-933-4511 fax024-921-1868
Email : fukusimadanpu@mtj.biglobe.ne.jp

8月26日～28日、群馬県で建交労第25回定期大会が開かれ、東北ダンプ支部から2人の代議員が参加しました。発言を紹介します。

東北ダンプ支部の高橋です。支部の副委員長をしています。(下の写真)

私は、23歳から45年間、建設現場でダンプもち労働者として働いてきました。今乗っているダンプは7代目です。少なくともあと7年、親父がダンプを降りた年までは続けようと思っておとろえたひざに注射をしながら毎日仕事をしています。

昨年10月22日、福島市穴原温泉で広域支部である東北ダンプ支部の結成大会を行いました。これには代議員・傍聴者51人が参加しました。現在支部の人数が400人ちょっとなので、8人に一人が参加した勘定です。結成大会は、活動と財政の方針、満場一致で可決し、役員を選びました。

東北ダンプの旗には、『みちのくに一騎当千の我らあり』の文字を染め抜きました。今年の高校野球、2年連続で優勝旗の白河の関越えは実現しませんでした。仙台育英の活躍は、目を見張るものがありました。まさに選手一人ひとりが千人に相当する活躍をしたのだと思います。

さて、話を戻します。それまで、東北各県にダンプ支部はあったものの、経済闘争の到達点や財政事情はバラバラでした。広域支部のもとで方針を強化し、単価をはじめとした組合員の就労条件、組織活動の財源を統一することが東北ダンプ支部の結成の目的でした。

広域支部結成に至るまでは、東日本大震災対策を東北ブロッカー丸(いちがん)となって、それまで11年間取り組んできました。また、それ以前には大型工事である仙台地下鉄建設工事を東北の共同闘争として取り組んできました。これらの闘争を通じて、各県の支部の間の情報共有や、信頼関係が醸成されてきたことが背景にあります。

東日本大震災から12年が経過した今年、公共工事における積算単価は労務費だけでも震災後60%以上も上昇しています。ところが実際に労働者が受け取るのは、積算単価の半額です。働き方改革で建設業界にも週休2日制が導入され、ダンプ労働者らの就労日数は削られていきます。また、燃料費の値上げにより、ダンプの仲間は疲弊(ひへい)しています。消費税率が10%に引き上げられたときに付帯されていたインボイス制度が今年10月から開始され、今まで売り上げが1千万円を越えなければ消費税を納めないで済んでいたのに、1千万円を越えなくても消費税納税業者になってインボイスの番号を発行してもらわないと仕事をもらえなくなる事態が生まれようとしています。この制度は免税事業者から税金を搾(しば)り取る悪法であり、我々の仲間に大打撃を与えることは明白です。

今こそ、建交労東北ダンプ支部に結集し、労働組合の使命でもある経済闘争・単価闘争を旺盛に取り組む必要があります。東北の仲間が一丸となって、悪政にストップをかけ、要求実現でさらに前進できるよう組織拡大においてもたくさんの仲間を迎え入れ、より強大な東北ダンプ支部を築き上げるつもりです。

皆さん、我々の現在と未来のために、ともに奮闘しようではありませんか。



東北ダンプ支部の執行委員・半澤です。(上の写真) 組織拡大は、どの組織でも最大の課題となっています。増やすという活動はもちろんですが、現勢を維持するというのも重要です。現勢維持の面では、大きく3つあると思います。まず①「組合員の要求」…これを実現して結果として実感できるものにしていくことです。

②「組合の活動方針の共有化」地域毎の定期的な集会の確立。東北ダンプ支部を結成して1年になろうとしています。結成直後、率直に議論になりました。「これ無しに組合活動はない、団結と言えるのだろうか」

専従者間の共通認識として各分会とも「日時を決めてやり進めよう」と確認しました。まだまだ道半ばですが、少しずつ着手しており前進しています。

③「組合員同士の親睦向上」各地域にまたがり組合員がいます、地域別に交流する機会はありませんから、組合員同士のコミュニケーションの場として、イベント等を企画・開催すること。この間、コロナ禍でイベント等が制限されていましたが、今年は3年ぶりに新春旗開きを開催しました。約70名の参加規模でした、参加者からは大変よかったと好評でした。また直近では、9月にボウリング大会を予定しています。

これらの指針が、組織全体を活性化させ、組合員のモチベーションを上げるために必要なことではないかと思っています。言わば、「団結」まとまりを構築していくことではないでしょうか！ こうした活動の積み重ねが、組織の現勢維持だと考えます。現場の仲間が「魅力ある組合だ」と感じ、活動に展望を持つことができれば、紹介の声もあがって組合も大きくなり強固な組織建設ができるのではないのでしょうか！

8月25日発行の全国ダンプ部会の新聞にも紹介がありましたが、先月、東北キャラバン宮城県行動を終えた後に、参加者から紹介の話が入り、立て続けに5名の拡大に結び付いています。これは参加者がキャラバン行動で確信を持つことができた結果ではないのでしょうか！

一方で努力をしても叶(かな)わないものがあります。それは年齢の問題です。東北ダンプ支部は高齢化が進んでおり組織全体の約4割は65歳以上となっています。したがって年齢を理由に廃業を余儀なくされ退会する仲間がいたり、残念なことでありますが、身体の事由により亡くなる方も少なくありません。これらを踏まえると、組織拡大を最優先に進めていかなければ組織は小さくなり、やがて消滅してしまいます。そういう危機感を持って活動しています。退会者が出れば、その月に減少した分をなんとか取り戻す。マイナスのままにしておかないことを意識的に行って、少なくとも現勢の維持を心がけています。その甲斐(かい)もあり、微増ですが純増にもなっています。

組織拡大は、主に訪問して対話を行うことが基本ですが、大きく分けると2つあると思います。

一つは、組合の未加入者を発掘して1軒1軒訪ねて対話することです。一度だけでなく2度3度と繰り返し訪問する。ここは相手の反応をみながらになりますが…諦(あきら)めることなく通うことです。旧福島ダンプ結成当時の古い組合員からこういう励まし(こほ)の声をいただいたことがあります。「半澤さんの訪問は決して無駄ではない、その種まきが大事だ。いつか芽が出て花が咲く」と。この時足しげく通い、6度目の訪問で組合に加入してくれました。今も組合員の一人です。

もう一つは、組合員の訪問です。これが拡大の最大のカギとなります。その理由はダンプという職業は横のつながりが多様なため、声かけや紹介により加入に結び付くケースがあります。ただ、組合員に「誰か入れてくれ」と言っても心には響きません。組合員ひとり一人と日常的な繋がりがなければ、重い腰はあがりません。組合員と専従者の関係性を強めるのも大事ですし、前にも話した通り、現勢維持の3つ要素も大事です。

これからも、東北ダンプ支部の組織拡大に奮闘していきます。

晴釣雨読(せいちょううどく)

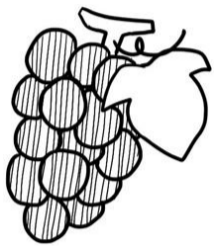
虫除けは溪流釣りに欠かすことのできないアイテムで、その蚊取り線香にまつわる奇怪な体験である。▼溪流釣りにどっぷりはまり、がむしやらの釣り三昧だった三〇年程前の話。盆休み相棒と二人で夜明けを待ち入溪、道らしきものは一切ない、唯一の藪道に向う。当日は、車が一台も無い事から釣り人が不在、いわば貸し切り同然、二人は心の高鳴りを抑えて藪道へ突入▼釣り始めて一時間ほどであろうか。微かに線香らしき匂いを感じる。汗まみれで周囲を気にする余裕もないまま上流へ進むとまた、微かに匂いを感じる。相棒と目を合わせ立ち止まる。貸し切り状態で誰も居ないと決めるが、不安もよぎるが上流へ。▼突然、藪に煙が漂う。心の動揺を抑え立ち止まり、二人で藪を見入ったその瞬間、男の仁王立ちが目に入り、二人で思わず声を発する。▼少し間があり、怪しげな小声で男は「岩魚釣るか?」と話す。「そう」と返答し、腰元を覗くと線香があった。▼会話を終え、その場を離れ上流へ進むと踏破できない大滝に遭遇。装備がないことから引き返すと判断し帰り支度をする。▼帰路、男に会わないことの不安で、二人は男の話題を語りながら下山する。▼車は無く誰一人いないはずだが線香の匂い、突然男の出現、出会った時の会話を思い返す。「槍を失くした」とか「髪の毛長い女」など、意味不明な話を振り返っていた事を思い出す。恐怖に取りつかれた思いで藪道を小走りして車へ戻った。三〇年前の不可解な出来事は、未だに忘れ得ぬ語り草である。

高橋 溪峰

建交労東北ダンプ支部 第2回定期大会

とき 2023年11月11日(土) 14時～
ところ 福島市・穴原温泉「吉川屋」

大会終了後、懇親会をおこない、宿泊して翌朝解散します。代議員制で行います。詳細は、あらためて案内します。



アナログの旅

秋田分会 KT



スマホの旅アプリが普及して、昔のように薄い紙の時刻表をパラパラとめくって乗り換え列車の出発・到着時間を調べなくてもボタン一つで検索できる。その機能をたまたま使うことはあるが、細かい数字がびっしりと書かれている時刻表で調べる方が自分の性に合っているようだ。ページをめくって発車・到着時刻を調べ、前のほうのページの厚い紙に印刷された駅名の書いてある地図にとらめっこしながら、これから訪ねることになる車窓の景色を想像するのが楽しい。

先日はコンパクトな時刻表を買おうと書店に行ったが見つからず、B5 サイズのとても重い持ち運びには向かないものしか売っていなかった。不便になったものだと嘆いたが、印刷された時刻表は、やはりいい。

7月、宮城県の南部で福島県に接する丸森町に列車を乗り継いで行く機会があった。仙台駅からJR 東北本線で24キロほどの槻木(つきのき)で阿武隈(あぶくま)急行に乗り換え、17キロで丸森駅到着。乗車時間は約1時間。驚いたのは、阿武隈急行。急行と名乗るからには駅をとばして、さぞかし速く走ることかと思ったら、全ての駅に停車する鈍行列車だった。南下するにつれ、見える景色は住宅地から田園風景に変わり、ホームが短いため駅によっては乗り降りする車両が制限された。乗車している多くが高校生、通学の貴重な足になっているのだと思う。

ふと半世紀前の高校生の3年間、新潟県の信越本線の見附駅から3つ先の三条駅までの約10キロ、12分間を通学していたのを思い出した。いまは、そんなことはしてくれないと思うが、駅へ発車間際にやってきた高校生が走って列車に乗り込むまで、駅員はアナウンスをして列車を止め出発を待ってくれた。アナログだから出来たのだろうか。それとも時間の流れに余裕があったのだろうか。その当時も今と同じ12分間の乗車時間だけれど、ゆったり流れたであろう同級生との会話や試験勉強の時間が懐かしい。大人になってから、「文章の行間を読み、想像力を働かせよ」とか言われてきたが、その意味するところがなんとなくわかる気がする。

時刻表片手に『青春18きっぷ』で旅をしたくなった。

※JR の『青春18きっぷ』は発売・利用期間が限られるが、一人で使う場合5回分(1回あたり 2,410円で普通列車が1日乗り放題)12,050円。

今度の利用期間は、2023年12月10日～2024年1月10日。下の写真は只見川(福島県)



消費税 **インボイス** 制度
見直し 中止せよ
— 個人事業者を直撃し地域経済を破壊 —

STOP! インボイス

地域経済や文化を破壊する
しかも消費税増税の地獄へ

インボイス制度導入により、消費税がいよいよ牙をむく。中小零細事業者のみならず、地域経済や文化も破壊しかねない。挙句の果てに、消費税増税の地獄へと導く。

中止求める意見書採択 ひろがる

インボイス制度で直撃を受ける消費税免税事業者は、農家、個人経営の飲食店・商店、文化関連のフリーランス、一人親方、個人タクシー、日雇い労働者、シルバー人材センターなど、幅広く、1千万人に及ぶと言われる。インボイス登録は任意だが、登録しなかったら、取引先から排除され、廃業の危機に直面しかねない。

地域に根ざし、地域経済を支える小規模事業者の廃業が増えたら、地域経済は衰退する。免税事業者が少なくなることは物価上昇にも直結する。

地方議会でインボイス制度の中止・延期を求める意見書採択が広がっている。全国商工団体連合会の調べによると2023年6月30日現在、171自治体にのぼる。

インボイス制度は文化にも深刻な影響を及ぼす。アニメ、声優、漫画、演劇のいずれの業界でもインボイスにより2～3割が廃業を検討しているという。

複数税率のため、免税事業者に事実上、課税業者になることを押し付け、課税業者には重い事務負担を強いる。誰もが苦しむインボイス制度を導入する狙いとは何なのか。

8%、10%の複数税率になったのに伴い、事業主が消費税の税率や税額を正確に把握するためと政府は説明する。だが、複数税率が2019年10月に始まってからこれまでインボイスなしでも特段、問題は起きていない。

免税事業者に対する課税拡大が狙いとも言えるが、それで大きな税収増にはならない。

将来の消費税引き上げに伴う、何種類もの税率に備える布石ではないか。だが大軍拡政策の下、増税は軍事費に消えていくだけだ。コロナ禍の影響や物価高騰で多くの業者や消費者が苦しんでいる。インボイス導入は中止し、消費税は下げるべきだ。

